

Software Japan 2013 : 高度 IT 人材育成フォーラム

情報システムユーザーの期待に応える高度 IT 資格制度の創設に向けて

本資料では、上記のイベントで参加者から頂いたご意見・コメントおよびそれに対する回答を紹介します。高度 IT 人材育成フォーラムの Web サイトでは各種資料を公開していますので、ご参照頂けると参考になるでしょう。

IT ベンダー、技術者、50 代

認定される技術者のメリットは何か。モチベーションを上げるというだけではいずれ、やらされ感が強くなり、廃れるのではないかと思う。医師や建築士、弁護士のように、個人をきちんと認証して、それなりの社会的地位、収入が確保できるようにする必要がある。

ステークホルダ毎の意義については、旭寛治氏の講演のスライド 9 ページをご参照ください。

官公庁、60 歳以上

JUAS 角田氏の話は興味深かった。ユーザの考え方 (IT 人材に対する) が変化していることが理解できた。IP3 の動きなどもう少し言及が必要ではないか？

IP3 を含む海外の動きについては、[Software Japan 2010](#) の高度 IT 人材育成フォーラムイベントで概要を紹介しました。また、情報処理学会 デジタルプラクティス「高度 IT 資格制度」特集号 (Vol. 3, No. 2, 2012 年 4 月) では IP3 を含む海外の取り組みも紹介しています。いずれも高度 IT 人材育成フォーラムの Web サイトからダウンロードできます。

IT ベンダー、人事・研修担当者、50 代

- ・ 経産省主導の ITSS を基準に認証する制度を、文科省の影響下の学会が推進できるのだろうか？
- ・ 資格制度とうたわれているが、「資格」となると法的根拠が必要となるが、文科省の認可となるのだろうか？ だとすると、上記のことがさらに疑問となる。
- ・ 基準となる ITSS は、CCSF にも見られる通り、フレームワークも含めて改訂の検討がなされている。この点、大丈夫なのだろうか？
- ・ 業務遂行能力を評価することになるが、学会主導で本当に見極められるのだろうか？
- ・ 個人認証の場合、ITSS のエビデンスに沿っただけでは粒度が粗くて、おそらくは審査員の個人特性が出やすい。そのために、詳細な審査マニュアル等が必要となるが、これは作成されるのか？
- ・ この認証のスキームの成否は、認証が社会的に活用され、その効力が実感されることだが、その点の検証がまだ弱いのではないだろうか？
- ・ この認証のそもそもの目的からすると、「IT エンジニア」の社会的活動の活性化ではないだろうか？ そうであれば、これを行う「プロフェッショナルコミュニティ」が一番

大切ではなかろうか。認証した人が、何ら社会的貢献をなさないとすれば、ISO で定めるプロフェッショナルの定義から離れてしまう。このような活動実績こそ認証の大きなポイントにすべきであると思う。

- ・ 情報処理学会は、以前は文部科学省に管轄されていましたが、現在は一般社団法人になっていますので監督官庁はありません。
- ・ 資格制度には公的資格と民間資格の 2 種類があります。情報処理学会の高度 IT 資格制度は民間資格です。この辺りの議論については、情報処理学会 デジタルプラクティス「高度 IT 資格制度」特集号 (Vol. 3, No. 2, 2012 年 4 月) に掲載した論文「高度 IT 資格制度に関する情報処理学会のビジョン」をご参照ください。
- ・ 審査の公平性や客観性を確保し、審査員による評価のばらつきを減らすことは重要なので、審査マニュアル等の整備は進めることになるでしょう。
- ・ 情報処理学会の立場からは情報系プロフェッショナルコミュニティが重要です。一方、個別の技術者や IT ベンダーの立場からは、彼ら自身が評価されることや、ビジネス上の成功を収める方が優先事項なので、イベントでは後者の話題を中心としています。

製造業、品質保証技術者、50 代

高度 IT 技術者 ≡ ビジネス領域の能力 (モデル・プロセス作り)

⇒ 社会的地位獲得

技術士・中小企業診断士等との能力マッピングが必要としました。

いずれ、能力マップを作って可視化したいと考えています。技術士 (情報工学部門、一次・二次試験)、情報処理技術者試験の各試験区分、カリキュラム標準 J07 の各領域について、知識項目毎に知識・スキルの要求レベルを分析中です。

製品開発、技術者、40 代

資格の更新については賛否両論あると思われるが、更新されないとプロとして認定しないということになるが、果たしてそれで良いのか？ 医者はいつまでたっても現役であれば医者である。プロとはそういうものではないか。

PMP ではポイントを貯めないと資格を維持できず、合格者はポイントを貯めないとならないという意識が強く、お金を払って無理して参加して維持している実態だと感じている。

PMP は果たして成功事例と言えるのか？

資格の更新はお金を集めるための手段 (ビジネスモデル) にしか感じられない。

改善を求めます。

IT 分野に限らず先端技術の分野では技術革新や社会的ニーズの変化が絶え間なく起こるため、CPD を確実に実践することは技術者の知識や意識を最新のものに維持する上で不可欠です。そのため、国際的に通用する資格で高度なものの多くは CPD の義務化と更新性を導入しています。

IT ベンダー，技術者，60 歳以上

現在検討中のテーマと同じであったので有益であった。

IS ユーザ企業，技術者，50 代

教育を担当しており，参考になりました。

IT ベンダー，人事・研修担当者，30 代

非常に参考になりました。CPD の仕組みとして，認定教育も必要になると感じました。

大学，大学教員，40 代

- ・ CPD の話は参考になりました。
- ・ 角田氏の講演は大変有用でした。(try & error, scrap & build を許容する場の提供，ユーザ企業における高度 IT 人材 (コンピテンシー，ヒューマンスキルを有する))

大学，大学教員，60 歳以上

高度 IT 資格制度の現状が分かり，たいへん勉強になった。大学での IT 教育のあり方に関するテーマを今後，期待したい。

大学，大学教員，50 代

企業が求める IT 人材の育成に関して，大学として何をすべきかが示されると，さらに良かった。

ご指摘のテーマについては，情報処理学会全国大会の中で以下のイベントを開催しますので，よろしければご参加ください。

日時：平成 25 年 3 月 6 日

場所：東北大学 川内キャンパス

大学教育と産業界での人材育成の連続化に向けて

- ・ [企業が求める大学教育と産学連携による高度 IT 人材育成の課題をどう解決するか](#)
- ・ [情報専門教育，カリキュラム標準，資格制度，スキル標準の有機的連携](#)

大学，大学教員，60 歳以上

大変貴重な講演をありがとうございました。「高度 IT 人材」とは，について改めて考えさせられます。方向としては IT-based (という言い方が良いかわかりませんが) であって経営企画に貢献できる人材ということなのだと思いますが，考え方が，まだよく理解できません。今後ともよろしくご指導のほど，お願いいたします。

大学，大学教員，50 代

情報系の学部・大学院が輩出しようと考えている人材像と今日ご紹介頂いた人材像との間には，単に実務経験を積んで行くだけでは埋め難いものが多いと感じました。情報系の学部・大学院を出ることのアドバンテージを明確化する必要性を強く感じた点は大きな収穫でした。

IT ベンダー， 経営者， 60 歳以上

- ・ IT 技術者という言葉が，コンピュータテクノロジーに注力したものに受け取られる。上級 IT スペシャリストを人材像としてもっと一般の人に分かる（想定できる役割が理解される）ように説明してほしい。
 - ・ 技術士（情報部門）と違いがあるか？
 - ・ グローバル人材として英語能力の設定はどのように考えるか？
- ・ 技術士会・情報工学部会とも連携して取り組みを進めています。技術士資格との大きな違いとしては，CPD および資格更新の義務化のレベルや国際的通用性などの面で，より厳格に対応しようとしている点が挙げられます。
 - ・ 英語能力の評価については，TOEIC 等，実績のある能力評価が実施されているので，それらを活用した方が合理的ではないかと考えています。

IS ユーザ， 技術者， 30 代

ユーザ企業に求められる IT 人材について，有益な話を聞くことができました。

IT ベンダー， 人事・研修担当者， 30 代

ユーザ企業側の視点の講演が大変興味深かった。

大学， 大学教員， 60 歳以上

JUAS のことを初めて知り，勉強になりました。

IT ベンダー， 人事・研修担当者， 50 代

ユーザ企業側からの期待や要望について聞きたいと思って参加した。角田さんの発表や説明で，JUAS としての取り組みや具体的な 5 つの点を把握できたので参考となった。今後の活動に活かしたい。

IT ベンダー， 技術者， 40 代

- ・ JUAS の角田様のお話・視点が，いわゆる大手 IT ベンダーの中にいる私にはとても新鮮でした。
- ・ 昨今は IT ではなく ICT という用語を使う方が一般的のように思いますが，ICT プロフェッショナルとしなかった理由は知りたいです。
- ・ 角田さんが言及されていた複数の役割を担当する人（広くマルチな人材）をどう認定していくのかも今後の課題になる気がします。

日本国内では，IT は経済産業省用語，ICT は総務省用語といった意味合いで使われることもありますが，IFIP IP3 をはじめ，国際的には IT Professional と呼ぶことが多いので，それに従っています。情報処理学会が経済産業省寄りということではありません。我々は IT と ICT の実質的な内容は同じだと認識しています。

IT ベンダー、技術者、50 代

ITSS レベル 5 以上は企業内/業界で活躍している人材で地位/モチベーションは高い。レベル 4 の人材の地位向上/モチベーション向上が課題。対象者も多い。情報処理技術者試験（レベル 4）の合格者の地位が高くない現状で「認定情報技術者」（レベル 4）の資格者の地位をどう高めるのかが大きな課題。相当なプロモーション活動が必要になるのではないかと考える。

IT ベンダー、技術者、50 代

認定・認証のフレームワークはレベル 4 に限らず上位レベルでも利用可能であり職種も拡張できるように検討されていると思うので、拡張のロードマップをある程度示すことが普及のために有効ではないかと考える。

ロードマップについては、今後、段階的に具体化して示したいと考えています。

IT ベンダー、技術者、40 代

- ・ このような資格制度の検討について知らなかったもので、たいへん有意義な話を聞くことができました。
- ・ 特にユーザ企業側からのお話は新鮮でした。パネルディスカッションは、あまり議論が深まらなかった感じがします。

パネルディスカッションの時間が少なかったかもしれません。次回以降の改善を検討します。

IT ベンダー、技術者、50 代

昨年の FIT2012 で説明された時より具体的な認定制度像が説明されたと思います。一方、2 つ目の柱であるコミュニティについては、説明がなかったので、分かりませんでした。例えば、JUAS 様のフォーラム/研究会のような内容で良いと思います。

情報系プロフェッショナルコミュニティについては、情報処理学会 デジタルプラクティス「高度 IT 資格制度」特集号（Vol. 3, No. 2, 2012 年 4 月）に掲載した論文「高度 IT 資格制度に関する情報処理学会のビジョン」をご参照ください。

技術者・経営者、50 代

- ・ 講演の内容およびフォーラムの取り組みともに大変有意義なものと感じております。
- ・ 制度を設計していく過程で IT からコンテクストを幾つかのレベルに広げて評価してみると、本日の聴講者からの指摘の疑問にも答えられるのではないかと感じました。

IT ベンダー、経営者、60 歳以上

- ・ 高度 IT 資格制度の創設に向けての取り組みについて、良く理解できた。
- ・ グローバル化が進んでいる中、国際標準としての資格制度は企業/個人どちらにとっても有用であると思う。できる限り早く制度が確立することが望まれる。
- ・ IT ベンダーにも、ユーザに対する提案において、ユーザの業務システムの知識を持った上での改善・変革を示すスキルが求められており、今日の発表の中でも、ユーザ企業

の多くが IT 部門にビジネス変革を求めている。このことは、高度 IT 人材には IT 技術に加えてユーザシステム等の幅広い知識が求められていることを示しており、資格評価の中にそれをどう取り込むかが課題であると思う。

IT ベンダー，人事・研修担当者，50 代

- ・ IPA からの見解も聞ければと思いました。

IPA とも協力して高度 IT 資格制度を進めています。今回のイベントにも、IPA から主要な方が来られていました。

IT ベンダー，人事・研修担当者，50 代

- ・ 資料のアップロードを待っています。